

地域医療連携室たより

No.31

発行日

2015年7月17日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第31号

人生最後のステージを その人らしく



消化器内科医

せ す み ひ で き
瀬 角 英 樹 医師

- 日本内視鏡学会専門医
- 上田・生と死を考える会 顧問

今年4月当院に就任しました。
これまでのこと、今後の抱負を
インタビューしました。

医師をめざしたきっかけは？

生まれは神奈川県。幼い頃夜、急に腹が痛くなり、母が私をおぶって夜の街をさまよい、やっと診てくれる医院を探しあてた。何の事はない便秘であったが、その時診てもらった時のありがたさ、そして母親のほっと安堵した姿をみて、「大きくなったら医者になる。」と言った。

中学時代、医者になるには体力をつけなければと陸上部に入部。長距離をしていた。当時は無医地区、医師不足の問題が社会の大きな問題になり、自分の選択に迷う事がなかった。そして信州大学医学部に入学。大学3年の時に僻地医療を考えるサークルを立ち上げた。名称は「お茶とのざわ菜民主医療研究会」という。通称は「おのみ研」と言っていた。長野の山村の診療所を仲間と一緒に回り、卒業後、長野県民医連（長野県民主医療機関連合会）で研修を開始した。

消化器内科を選んだわけ

内科の中でも広い分野だった事と内視鏡で身体への負担を少なくして治療が可能という事で僻地での医療に役に立つのではないかと思った。また、僻地ではどんな疾患でも診なければならず、内視鏡一本あればという考えだった。



今までの医師生活で心に残った患者さんは？

医師になって4年目のころ。胆管ガンの女性がいた。ターミナルを自宅で過ごすことになった。程なく力尽きた。病院であれば心電図のモニターで死が決められる。しかしその時夫は、家で「あっ、いったな」と言った。在宅では患者、家族が主役であり、そこに土俵があると思った。

今後どのような医療をしたいか

患者さんそれぞれの人生最後のステージをその人らしく、医療がどうサポートできるか。家に帰りたいという希望があれば叶え、その人の最後の物語を周りの人たちと紡ぐ過程を大切にしたい。その一助になりたいと思う。

学生最後の年、1988年、10人の新卒医師たちでソ連、東ドイツの医療を見学した。その時見た社会主義国の医療に眼を奪われた。女性医師が多く、いきいきと働いていた。医療費が無料であった。今日本でも女性医師の比率が高くなっているが、女性医師が働きやすい環境が、患者さんにとっても大事だと思っている。

当院は新築移転する計画となっている。新病院建設に向け、利用者の目線に立ちきり、友の会会員の協力を得ながら、職員みんなの良心、叡知を結集していければと思う。

あらためて趣味は？ご家族は？

中学の終わりにみたラグビーの試合、その魅力にひきつけられ、高校、大学の前半はラグビー部に入り、熱中。今はサッカーの観戦を家族とするのが楽しみだ。J-1リーグ「松本山雅F.C」のサポーターである。夢をめざし、がんばっている人たちを応援するのが好きだから。そして家族と同じ時間を共有できることが嬉しい。

音楽も好きである。何でも聞く。クラシック、ジャズ、ハードなロックも。歌うのも好きだ。たまにカラオケも。平和の歌をギター片手に。

現在、妻と次女は松本に、長女夫婦が山形にいる。

淡々と話をしていただいた瀬角医師。様々なハードルを乗り越えて今があるのは皆もちろんですが、根ほり、葉ほり聞いてもにこやかに答えていただきました。当院に新しい風が吹いています。

障害者施設等一般病棟でお花見

笑顔がうれしい



『ま・ん・ぞ・く』

5階病棟看護師長 藤山 幸子

当院5階病棟は障害者施設等一般病棟60床です。重度の肢体不自由、脊髄損傷等の重度障害、重度意識障害、難病などの方を対象に、A D L（日常生活動作）の維持とQ O L（生活の質）向上のための支援を図る病棟です。

晴れた日、午後のひとこまです。

4月初め、「今年こそは私たちの病棟らしいことをしたい。」と主治医に相談！二人の呼吸器疾患の患者さん、おひとりは人工呼吸器離脱に向けリハビリ中、

もうひとりは気管切開し人工呼吸器装着中。主治医、病棟看護師、リハビリスタッフ、臨床工学技士と連携して、外の空気にふれてもらおうと考えました。

患者さん家族も誘い、なんと、人工呼吸器を装着したまま霞城公園前の桜並木を30分弱散歩しました。

患者さんより「ま・ん・ぞ・く」という言葉が聞かれました。とても嬉しそうな笑顔でいい表情でした。もう一人の患者は「まぶしい？」という問いに、思い切り手を挙げ意思表示してくれました。

私たちスタッフも満足です。一緒に出かけた入職2年目の看護師が「感動しました！良かったです。」と。その言葉に私はまた満足しました。



あったかいふれあい
なんだから～♪



当院医師がカメラマンに

社員総会決議学習会 開催



5月27日（水）に当法人社員総会が開催され、6月18日（木）、25日（木）の両日、お昼の時間を利用し、全職員を対象に学習会が開催されました。2014年度総括を杉原保副院長より、2015年度方針を伊藤英三副院長より報告がありました。

法人理事会より2014年度は4月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所「至誠堂ホームケア24」を立ち上げ、10月に6階病棟60床を地域包括ケア病棟に転換、働きやすい職場、心通いあう職場をめざし、全職員が心ひとつにし地域住民のための医療と介護を実現しようという呼びかけがありました。高橋敬治病院長が当法人松柏会新理事長に選出されました。

高橋敬治病院長が当法人松柏会新理事長に選出されました。



我らが街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ②1



山形もち処 餅の星野屋

山形市旅籠町1-3-8 TEL023-622-2563

営業時間 9:00~18:00 売り切れ次第閉店

定休日 日曜日

昭和8年創業の老舗。平成25年2月にリニューアルオープンしています。餅、大福、団子、菓子、赤飯類、餅製品、季節の和スイーツを製造・販売しています。シックな雰囲気の店内に入っすぐ見えるショーケースに団子や大福が美味しそうに陳列されています。奥ではイートインも可能で軽食が楽しめます。メニューも豊富で何にしようか迷ってしまうほど。季節の和スイーツもあり四季折々の品を堪能できる素敵なお店です。

ぜひご利用下さい。



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価

至誠堂総合病院 地域医療連携室

山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
http://www.shiseido-hp.jp
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院
小林 真司
編集 地域医療連携室